

## 令和四年度 自己評価表

北海道歯科技術専門学校は歯科技工士養成の高等教育機関として在籍学生の資格取得とより良い専門教育を受けることができるように学校運営及び教育活動について日々、改善を図り、教育の質の向上と保証を確実にするために自己点検・自己評価を行った。

### 教育理念

- 医療人としての人格形成
- 基礎技術の完全習得
- 卒業後臨床に即応できる応用技術の習得

### 沿革

- 1976年12月 学校設立準備委員会設置
- 1977年07月 現在地に校舎建設着工
- 1978年03月 校舎完成
- 1978年04月 北海道知事より財団法人歯誠学園の認可を受ける  
厚生大臣より指定を受け、北海道歯科技工士養成所として開校
- 1978年10月 専修学校の認可を受け、北海道歯科技術専門学校と改称
- 1981年12月 学校法人阪勉学園埼玉歯科技工士専門学校と姉妹校締約
- 1984年04月 卒後研修の場として歯科技工研究所を設置
- 1988年04月 中国・黒龍江省衛生庁からの依頼により2名の留学生を受け入れる
- 1990年03月 中国からの留学生2名が国家試験に合格。中国・黒龍江省ハルビン市の第1・第2病院に歯科技工士としてそれぞれ勤務。現在は歯科医師として活躍。
- 1991年04月 北京医科大学及びジャムス歯科大学から歯科医師を受け入れ短期研修を行う。
- 1991年07月 中国・黒龍江省衛生庁より医療使節団の訪問を受ける
- 1996年04月 歯科技工研究所を別棟に移し、施設とカリキュラムを一新してリニューアルオープン
- 2004年04月 歯科技工研究所を拡張し、施設・設備を更に充実させる
- 2015年04月 財団法人歯誠学園から一般財団法人志星学園に移行

### 学校の特徴

資格取得率、就職率はもとより本校は日常においても何よりもまず学校生活を最優先し歯科技工学の修得に励み同時に社会的モラルとマナーを心がけ医療人としての厳格な心情を養い人格を陶冶する事を目指しております。

評価項目の達成および取り組み状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 理念、目的、育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	(4) 3 2 1
ロ. 学校における職業教育の特色は何か(特色は設けているか)	(4) 3 2 1
ハ. 理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	(4) 3 2 1
ニ. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
特になし

2. 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3 2 1
ロ. 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効かつ合議的に機能しているか	(4) 3 2 1
ハ. 人事、給与に関する制度は整備されているか	(4) 3 2 1
ニ. 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	(4) 3 2 1
ホ. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	(4) 3 2 1
ヘ. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
本校の信用やブランド力の向上のために、より厳正な法令遵守だけに留まらず、歯科技工を通じ社会貢献のさらなる努力をする。

3. 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
ロ. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1
ハ. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
ニ. キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	(4) 3 2 1
ホ. 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
ヘ. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
ト. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
チ. 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4) 3 2 1
リ. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
社会のニーズに即応したカリキュラム編成に向け、カリキュラムの検討を行っている  
授業時間・授業形態は関係法規を遵守し適切に配分、実施している  
外来講師から本校の教育に関する様々な意見を収集し、教育に反映する努力をしている

4. 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
ロ. 資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
ハ. 退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
国家試験合格率・就職率100%の維持を最大目標とする  
就職専門担当者及び担任制により学生個々にあったアドバイスを行っている

5. 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
ロ. 学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1
ハ. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
ニ. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
ホ. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
ヘ. 学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1
ト. 保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1
チ. 卒業生への支援体制はあるか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
通常授業及び補習をしながら課外活動の時間捻出が困難である  
定期的に担任教員による学生との面談を実施し、学生状況の把握に務めている。また、必要に応じて保護者への連絡を行い、情報共有を密に行っている。  
卒業生へは就職サポートセンターを設置し、卒後の再就職の支援を行っている。

6. 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	(4) 3 2 1
ロ. 防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
LED化等省エネ、温暖化対策等、環境整備に務めている  
防災訓練を毎年行い、災害時の対策に務めている

7. 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 学生募集活動は、適正に行われているか	(4) 3 2 1
ロ. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1
ハ. 学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
特になし

8. 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4) 3 2 1
ロ. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1
ハ. 財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
ニ. 財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
特になし

9. 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4) 3 2 1
ロ. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4) 3 2 1
ハ. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	(4) 3 2 1
ニ. 自己評価結果を公開しているか	(4) 3 2 1
ホ. 定款を厳正に遵守し、コンプライアンスが機能しているか	(4) 3 2 1
ヘ. 公益通報等の支援体制は整っているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
専任教員の年間目標設定とその結果及び年2回の自己点検を実施している

10. 社会貢献・地域情報

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
イ. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(4) 3 2 1
ロ. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 (3) 2 1
ハ. 歯科技工に関する啓発活動を行っているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
特になし
- ② 今後の改善方策  
特になし
- ③ 特記事項  
地下歩行空間での歯科技工に関する啓発活動や、研究所において年に2回の実技講習会を実施している